

第3学年進路通信 ⑦

H27.10.6

私大・専門学校

挑め！公募制推薦入試

10月6日現在で、30名の生徒諸君が私立大や専門学校の公募制推薦願を提出し、11月に実施される試験に向け準備をしています。競争率は全般的にはそれほど高くなく、2.0倍程度と予想されますが、中には3.0倍を越える激戦のところもあります。

今日、私立大学入学者の約半数が推薦入試やAO入試の合格者によって占められており、高校側、大学側ともに、重要視しています。

ただし、そうは言うものの、年が明けて1～2月に実施される一般入試での合格が依然として大切な要素を占めていることに変わりはありません。従前からある一般入試へ向けての準備を考えたとき、この10～11月はターゲットを絞り、腰を据えて実力を養わねばならない時期です。そのようなことも十分に意識した上で、公募制推薦に果敢に挑んでほしいと思います。

東京の専門学校

東京の専門学校へと進む諸君が現在、把握できている範囲で、10名程います。



おそらく、進学後2年を経て、東京で社会人として歩み出そうと考えているのではないのでしょうか。

東京というところは**生活費がかかります**。その原因の多くは家賃の高さにあります。東京で就職しても高い家賃を支払ったのちに残る金はずかです。若いうちは、満足に生活していけるだけの収入が得られるかどうか、難しいところです。

そのような不安な就職を間近に控えての専門学校に、親元を離れて通うことは精神的に大きな負担感があると思います。しかし、そのあたりのことを十分に覚悟の上で、住み慣れた土地をあとにするのでしよう。生徒諸君が、力強く初心を貫き通すことを信じて止みません。

大学と専門学校

大学進学を志望してここまで頑張ってきたものの、まだ思うように結果が出ずに悩んでいる生徒諸君もいるでしょう。

たとえば、公募制推薦入試にチャレンジし、その結果が出るのが11月中旬以降。専門学校は10月から入試をスタートし、しだいに定員を満たし募集を締め切ります。もちろん、1月～2月の大学入試の結果まで待っていてくれるはずありません。

これから先も大学進学の道を追求していくためにも、今こそ、**専門学校進学のカードを用意しておくことが有効**ではないでしょうか。伊高には多様な生徒がいますから、周りの友人たちに安易に合わせていると、進む道を誤ってしまうおそれもあります。自分自身をよく見つめ、決断するタイミングを逃さぬよう、御両親や学級担任と話し合ってほしいと思います。

卒業までにできることは？

- ・実用英語技能検定
- ・日本漢字能力検定
- ・語彙・読解力検定
- ・ニュース時事能力検定
- ・パソコンスキルアップ
- ・簿記
- ・部活動（補助）
- ・ボランティア
- ・あいさつ、皆勤、ストーブ当番
- ・弁当、料理、洗濯
- ・選挙権
- ・特待生（授業料免除）

短大・専門学校は時間が短く、内容をぎっしり詰め込んでカリキュラムが組まれています。すぐに就職活動も始まります。

四年制大学もボーッとしていると、あっという間に時が過ぎ、就活期を迎えることになります。